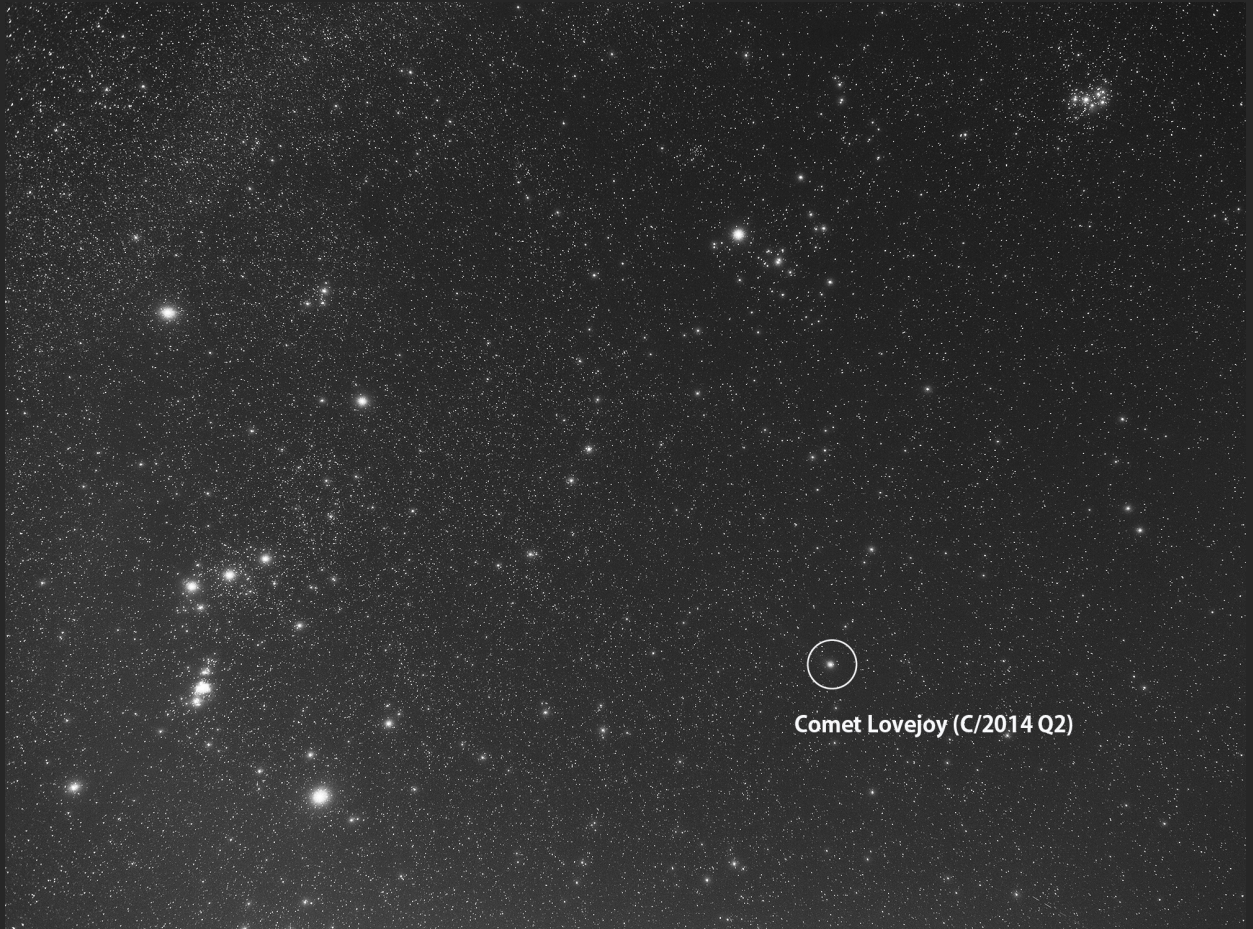


# 天文教育

2015 1

*Japanese Society for Education and Popularization of Astronomy*



Comet Lovejoy (C/2014 Q2)

<特集> 第10回最新の天文学の普及をめざすワークショップ@ALMA、チリ

<論文> 高校物理における天文研究データの教材利用

<投稿> 2015年国際光年の概要／神津牧場天文台の概要と運営／

肉眼で見た2014年10月の太陽黒点

天文教育普及研究会

## 本誌原稿募集のお知らせ

編集部では下記の原稿を募集しております。会員の皆様からの活発なご投稿をお待ちしております。

1. **原著論文**：天文教育・普及について、オリジナル性があり考察が優れ、学術論文として主な内容が印刷発表されていないもの。表題、アブストラクトには英文も付けてください。
2. **解説記事**：天文学や天文教育・普及に関する解説・紹介記事。分量は刷り上がりで6～10ページ程度。
3. **各種の報告など**：支部会やワーキンググループの活動報告、各種のイベントの報告、また天文教育・普及に関する授業の実践例など。分量は刷り上がりで2～4ページ程度。
4. **書評**：天文学や天文教育・普及に関する書籍の紹介。分量は刷り上がりで1ページ程度。
5. **会員の声**：会員の皆様からのご意見・ご感想など。分量は刷り上がりで1ページ程度。
6. **表紙の写真**：タイトルと400字以内の「表紙の言葉」とともにご投稿ください（写真のみでも構いません）。
7. **情報コーナー（各種会合・イベントの告知など）**：支部会やワーキンググループの会合、また天文学に関する各種の会合・イベントなどの情報。分量は任意ですが、スペースの関係で適宜省略させていただく場合があります。会合・イベントの開催日と会誌の発行日（奇数月下旬）にご留意ください。

- ・ **締め切り**は1は原則として奇数月末日、2～7は偶数月15日。投稿先は [post@tenkyo.net](mailto:post@tenkyo.net) です。
- ・ **広告掲載**を希望される方は事務局 ([jimu@tenkyo.net](mailto:jimu@tenkyo.net)) までお申込みください。掲載料はB5判1ページ ¥20,000-、半ページ ¥12,000-、1/4ページ ¥7,000-、チラシの折り込み ¥20,000-です。

※本誌に掲載された記事は、当会 Web サイト (<http://tenkyo.net/>) にて PDF ファイルの形で公開を予定しております。インターネットでの公開に差し障りのある場合は、ご投稿の際にその旨ご連絡をお願いいたします。

なお、2014年9月号から、当会会員に対しては会誌発行後に速やかに、パスワード制限※をかけた形で閲覧できるようにし、発行から1年経過後にパスワード制限を解除して、広く一般に公開する予定です。

※今号「事務局からのお知らせ」の末尾（90頁）をご参照ください。

### 【編集委員会からのお願い】

『天文教育』の編集は、すべて会員からなる編集委員によって行なわれています。ご投稿の際には以下の点についてご協力いただけますよう宜しくお願いいたします。

- ・ 原稿の投稿は、原則として Microsoft Word ファイルでお願いします。
- ・ 執筆用のテンプレートがホームページ (<http://tenkyo.net/>) からダウンロードできます。できるだけこのテンプレートをご利用くださるようお願いいたします（執筆上の留意点なども記しています）。
- ・ 十分に推敲を重ねた完全原稿でご提出ください。分量や内容によっては手直しいただく場合もあります。
- ・ 提出データは必ず各自でバックアップしておいてください。
- ・ Word 以外に一太郎ファイルやテキストファイルでも受け付けております。
- ・ 原稿のご投稿やご質問は電子メールにて、下記のアドレスへお願いいたします。

投稿先・質問先 メールアドレス：[post@tenkyo.net](mailto:post@tenkyo.net)

## 表紙の言葉

### ラブジョイ彗星(C/2014 Q2)をみんなで 見てみよう

日時：2015年1月9日20時50分、カメラ・レンズ：Canon EOS5DMkIII, Nikon AF-S 24-70mm f/2.8G ED, fl=35mm相当, ISO 1600,60秒露出

「アイからラブへ」という怪しげなタイトルが紙面を飾ったのは、すでに1年以上前の2013年12月のこと。大彗星になるといわれたアイソン彗星が崩壊・消滅した、まさにそのときに肉眼等級で輝いていたラブジョイ彗星(C/2013 R1)が、代役として注目を浴びたのだ。このときのラブジョイ彗星(C/2013 R1)は、確かに立派な姿の彗星であった。しかし、明け方の空だったので、多くの人々が気楽に見るには難しい対象だった。さて、

ラブジョイさんによって昨年の夏に発見された5つ目のラブジョイ彗星(C/2014 Q2)は、南天からゆっくりと北上し、年末から北半球でも見えるようになった。そうして、1月上旬には、予想より明るい4等星の彗星になっていた。暗い場所では、肉眼でも彗星の姿を確認できるし、双眼鏡を使えば、都会でも彗星らしい姿として見る事ができる。いま、おうし座を通過したラブジョイ彗星(C/2014 Q2)は、1月30日に近日点を通過、2月にアンドロメダ座の足元を、3月にカシオペア座を横断して行く。このペースならば、3月いっぱいには双眼鏡でも見えそうだ。いま、ラブジョイ彗星が、観望のしやすい時間・位置に明るく輝いている。まさに、多くの人々に見てもらいたい彗星だ。

撮影と文：大西浩次